

令和4年度 自己評価報告書

学校法人遠賀学園 遠賀中央幼稚園

1、本園の教育目標

学校教育法の定めるところに基づき、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目指します

2、本年度の重点目標

- ① 自然と関わる遊びを豊かにする保育計画を考える
- ② 防災・防犯等について理解し、非常時の備えとなる安全教育を深める

3、評価項目の取組と成果

自己評価結果の総括表評価

A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

重点目標 ①	評価項目	基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	意見・説明
自然と関わる遊びを豊かにする保育計画を考える	五感を刺激する感動体験を通して、発見を楽しんだり考えたりしながら遊ぶ援助の工夫	4	・振り返りの記録から、自らの指導と子どもの学びを捉え保育計画の改善をする	2.5	4	・子どもが、自然の変化を通して季節を感じたり自分たちの遊びに自然を取り入れたりするようになった (育みたい資質・能力に向かう遊び) ・生命の不思議さや尊さに気づき、大切にしている気持ちが芽生え、自然との関わり方に変化が見られた (生命尊重)	3.5	A	普段から職員間でのコミュニケーションを密にし、また園内研修で子どもの姿を共有することで、援助の仕方や物的環境を整えられたことが子どもの育ちを大きくしたことを実感した。クラス用や戸外用の図鑑を準備することで、虫や植物への興味や知識が深まったように思う。また、子どもの遊ぶ様子や園庭で見つけた虫や植物、そしてそれらの四季による変化の写真を掲示したポートフォリオの活用は、好奇心・探求心に繋がり遊びが豊かになった。自ら自然に関わる機会が少なかった子が、虫博士・植物博士に憧れ、一緒に遊び感動体験に繋がったことは、その子の自信となり友だち関係も広がっていった。取組については、遊びこむ時間の確保や園内研修の充実等の課題を改善し、次年度に繋げていきたいと思う。
		3	・子どもが好奇心や探求心を持って遊べる環境を整える園内研修で子どもの姿を共有したり、自然に関する知識を深めたりし保育に活かす		3	・子どもが、植物や虫を調べたり集めたりしながら、自ら自然に関わるようになった (調べる)			
		2	・子どもの自然と触れ合っている姿から、子どもの興味関心を捉える		2	・子どもが、自然の事象や変化に気づき、不思議さや面白さを伝えるようになった (気付く・伝える)			
		1	・戸外遊びの時間を増やし、自然と関わる遊びを保育に取り入れる(月1回散歩、月2回プレイゾーンでの活動など)		1	・子どもが、自然の事象や様子を見るようになった (見る・観る)			

重点目標 ②	評価項目	基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	意見・説明
防災・防犯等について理解し、非常時の備えとなる安全教育を深める	防災・防犯等の非常時に必要な態度や行動を身につけるための避難訓練の実施と指導の工夫	4	・「緊急時引渡し票」を基に、保護者への引き渡し訓練を行う	3.1	4	・子どもが自ら考え、状況に応じた適切な行動がとれるようになった ・保護者が訓練に参加したことで、家庭で防災について話す機会が増え、子どもも保護者も防災意識が高まった	3.2	B	毎月の避難訓練では、訓練前の導入と訓練後の振り返りを大切に、子ども達と一緒に話し合う機会を多くしたことで、訓練の必要性がわかり、落ち着いて参加ができるようになった。避難経路図の掲示場所を子ども達が見やすい場所に変更したことも、自ら考え行動してみようとする気持ちの変化に繋がったように感じる。毎年試食していた非常食をクッキーの他、水を入れて作る様子も見てご飯を食べてみたり、ゲームやダンスをしたりしたことは、年齢の低い子どもたちにとっても防災への関心に繋がったように思う。 不審者訓練、保護者参加の引き渡し訓練の実施は次年度の課題としてしっかり計画を立てていく必要がある。また教師は、日頃から話し方（伝え方）に気をつけること、学び得たことは知識として持つのではなく行動できるようにするという意識を指導していかなければと思う。
		3	・ゲーム等で遊びながら災害時(非常時)の適切な行動が身につくよう指導の工夫をする ・消防団の演習見学や警察等の外部指導により、非常時の備えの重要性を意識できるようにする		3	・様々な場面設定での訓練に参加・見学し、遊びながら防災について学んだことで、状況に応じた避難の仕方がわかり、考えて行動するようになった			
		2	・絵本や紙芝居、DVDの活用の他、保育室に避難経路を掲示し、災害等の非常時の危険性や行動の仕方について子どもと一緒に考え、安全に対する意識を育てていく		2	・避難訓練に繰り返し参加することで、訓練の大切さがわかり真剣に取り組むようになり、廊下や階段の歩き方や「おはしもち」の約束を意識して行動する子どもが多くなった			
		1	・年に10回避難訓練を実施(火災・地震・水害・不審者)振り返りから課題や改善点を探り、次の避難訓練に活かす ・危機管理マニュアルを折々に読み、確認と改善をする		1	・緊急時の避難放送を理解し、保育者の指示により安全な所に避難できるようになった			

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
① 幼児一人一人が自己発揮できるための環境を整え、主体的に挑戦する気持ちを育てる指導方法の工夫	・幼児の内面を理解し、喜んで登園し安心して過ごせる環境を整え一人一人に合った配慮や指導を考えていく。
② 防災・防犯等の意識を高め、いざという時に自分の身を守ることができる安全教育を深める	・昨年の課題を改善し、非常時に必要な態度や行動を身につけるための避難訓練の実施と指導の仕方を工夫する。